

国設 軽井沢 野鳥の森



ほ乳類(英名、学名)

- ①ツキノワグマ(Asian Black Bear, *Ursus thibetanus*)
頭胴長120cm前後。胸に三日月のような模様がある(模様がない個体もいる)。植物を中心とした雑食性でおとなしいが、突然出会った場合などは攻撃されることもあるため、散策時には熊鈴などの利用が必要。
- ②ニホンカモシカ(Japanese Serow, *Capricornis crispus*)
日本固有種。特別天然記念物。頭胴長80cm前後。草食性で脚張りをもち、ウシに近い種である。
- ③ムササビ(Japanese Giant Flying Squirrel, *Petaurista leucogenys*)
日本固有種。夜行性。空飛ぶリスの仲間としては世界最大級である(全長80cm前後(尾を含む))。木の芽や木の実などを主食とする草食性。
- ④ニホンリス(Japanese Squirrel, *Sciurus lis*)
日本固有種。体長35cm前後(尾を含む)。昼行性。植物を中心とした雑食性。秋にはクルミやクリなどを地中や枝の間などに保存する貯食行動も見られる。
- ⑤イノシシ(Wild Boar, *Sus scrofa*)
全長130cm前後。植物を中心とする雑食性で繁殖力が強い。メスは子ども達と群れを作る。森林内に泥浴びをした痕で見つけることもある。
- ⑥ヤマネ(Japanese dormouse, *Gliresctus japonicus*)
日本固有種。天然記念物。全長12cm前後(尾を含む)。昆虫類を中心とした雑食性で、冬は丸くなって冬眠する。

環境省信越自然環境事務所

〒380-0846 長野県長野市旭町1108 長野第1合同庁舎 TEL 026-231-6570 FAX 026-235-1226
http://chubu.env.go.jp/nagano/

※写真はピンキオ提供(イノシシ)及びオリヴィエ・メシアンを除く

軽井沢野鳥の森について

長野県軽井沢町に位置する軽井沢野鳥の森は、国が設定した4つの野鳥の森の1つとして1974年に誕生しています。標高は1,000~1,100m程度で、年間の平均気温は約8℃と冷涼な地域です。野鳥の森を含めた周辺の地域は上信越高原国立公園や国指定浅間鳥獣保護区に指定され、自然景観や鳥獣類の生息地が保全されています。

近年では鳥類が年間を通じて約80種観察され、ほ乳類は約40種が生息しています。それらのうち鳥類4種、ほ乳類20種が日本の固有種です。

森全体の面積は約100haであり、林野庁が所管する国有林となっていますが、南側のエリアには遊歩道や休憩所などが環境省により整備されています。植林されたカラマツに広葉樹が混じった森ですが、一部にはミズナラを中心とする二次林も見られます。春にはスミレやアズマイチゲなどの花々が咲き、初夏にかけては木々の新緑がまぶしいうち、鳥のさえずりが響き渡ります。夏にはトンボなどの昆虫類が多く見られ、秋には木々が美しく色づきます。また冬にはほとんどの木々が葉を落とした見通しの良い明るい林となり、雪の上にはノウサギなどの動物の足跡も見られます。



鳥類(英名、学名)

- ①ヤマドリ(Copper Pheasant, *Symaticus soemmeringii*)
日本固有種。留鳥。全長125cm(オス)。オスは非常に長い尾を持つ。よく茂った林で見られ、木の実などを食べている。
- ②アオゲラ(Japanese Green Woodpecker, *Picus awokera*)
日本固有種。留鳥。全長29cm。オスは頭部の赤い模様が目立ち、繁殖期にはピーピーと口笛のような音を出す。アなどの昆虫を好む。
- ③セグロセキレイ(Japanese Wagtail, *Motacilla grandis*)
日本固有種。留鳥。全長21cm。水辺でよく見られる。雑食。
- ④カヤクグリ(Japanese Accentor, *Pramella rubida*)
日本固有種。冬鳥。全長14cm。低木林を好み、山道や枯れた藪などで見られる。
- ⑤ノジコ(Yellow Bunting, *Emberiza sulphurata*)
全長14cm。夏鳥。世界の中で日本の本州でだけ繁殖する。落葉広葉樹林を好む。
- ⑥ヒレンジャク(Japanese Waxwing, *Bombicilla japonica*)
全長17.5cm。冬鳥。ほとんど来ない年もある。木の実や草の実を主食として、冬はヤマドリギに集まっていることも多い。
- ⑦シジュウカラ(Japanese Tit, *Parus minor*)
全長14.5cm。留鳥。野鳥の森の中では最も観察しやすい。住宅地近辺などでも見られる。
- ⑧クロツグミ(Japanese Thrush, *Turdus cardis*)
全長21.5cm。夏鳥。朗らかな声でさえずり、歌のレパートリーも多い。日の出前の約30分間によくさえずる。
- ⑨キビタキ(Narcissus Flycatcher, *Ficedula narcissina*)
全長13.5cm。夏鳥。近年野鳥の森で増えている。メスは全体にオリーブ褐色。そのさえずりは「森のピッコロ奏者」とも呼ばれている。
- ⑩オオルリ(Blue-and-white Flycatcher, *Cyanoptila cyanomelana*)
全長16.5cm。夏鳥。溪流沿いを好む。「日本三鳴鳥」とも呼ばれる美しいさえずりが特徴。メスは茶褐色で警戒時にはさえずることもある。
- ⑪ウツクワウ(Ural Owl, *Strix uralensis*)
全長50cm前後。留鳥。夜行性でネズミを主食としている。羽音を立てない翼や音源を正確につかむための左右で上下にずれた耳などの様々な特徴を持つ。

軽井沢野鳥の森にゆかりの人々

なかにし ごどう 中西 悟堂 (1895-1984)



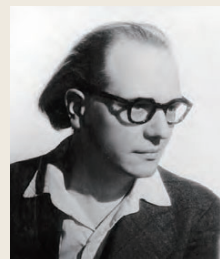
中西悟堂は、「日本野鳥の会」の創設者です。野鳥研究者であり歌人・詩人でもありました。日本全国を巡りながら野鳥観察を続けるとともに、東京の自宅では野鳥を放し飼いにしたり、昆虫や淡水魚など様々な生き物にも深い興味を持っていました。

当時の日本では、鳥はカゴの中で飼って姿や鳴き声を楽しんだり、狩猟や食肉とする対象でしかありませんでした。しかし悟堂は当時の日本の言葉にはなかった「野鳥」という単語を作り出し、「野の鳥は野に」を

標語に野鳥の保護などに精力的に取り組みました。

悟堂は頻繁に軽井沢を訪れていましたが、「室内にいて40種からの鳥の歌がきかれる点では、日本の三大野鳥生息地と言えるだろう」との言葉を残しています。なお、常宿の当時の主人星野嘉助は中西悟堂を師と仰ぎ、軽井沢をフィールドに全国的にまだ珍しかった探鳥会を積極的に開きました。このような背景は軽井沢で野鳥の森が設定された理由の一つで、その精神と活動は現在も引き継がれています。

オリヴィエ・メシアン (1908-1992)



メシアンはフランスに生まれ、20世紀のヨーロッパを代表する現代音楽の作曲家です。鳥類学者としても知られ、世界中の鳥の声を採録し、フルートとピアノのための曲『クワックミ(クワウタドリ)』(1952年)など、小鳥たちのさえずりをモチーフとした数多くの作品を生み出しています。

メシアンは1962年に演奏会への出演のため初来日し、その際、彼はフランスの鳥類学者の勧めで軽井沢野鳥の森を訪れています。逗留していたホテルの当主星野嘉助が案内役を務め、メシアンのためにテープレコーダーを用意したそうです。しかし、メシアンは「鳥たちはただ勝手に鳴くわけではありません。鳥のさえずりにはそれぞれにレパートリーがあります。ですから実際に聴かなければ、さえずりの強弱や鳴くタイミングが分かりません。」と言い、テープレコーダーを使わなかったそうです。

大きな楽譜の上には、ウグイスやコルリ、シジュウカラ、キビタキ等など26種にも及ぶ鳥たちのさえずりが採録され、まるで小鳥の合唱曲集のようだったそうです。この時の鳥たちの歌から「七つの俳譜」の第6曲「軽井沢の鳥たち」が生み出されました。

国設 軽井沢野鳥の森 観察マップ

軽井沢野鳥の森(約100ha)にはクリやカラマツなどが茂り、年間約80種類の野鳥の他、ツキノワグマやニホンカモシカ、四季折々の草花など、多くの野生動植物が息づいています。



① 野鳥の水浴び場

浅く流れも緩やかな沢には、よく小鳥たちが水浴びに訪れます。小枝で覆われた場所など、天敵から見えにくい場所が観察ポイントです。

② ヤマドリ観察ポイント

このポイント付近ではしばしばヤマドリが観察されています。

③ 軽石

至るところに堆積している軽石は1738年の浅間山の噴火によるものです。階段沿いの崩れた斜面で、軽石の堆積が確認できます。

④ ムササビの食痕

周辺にはアカマツやミズナラが多く、ムササビやリスによるマツボックリやどんぐりへの食痕も見られます。

⑤ 草地の維持

生物多様性を保全するため毎年地元ボランティア団体(*)が藪刈りをして草地を維持しています。

(*)どんぐり運動の会
カラマツなどの植林地をより自然な森にしたいため、1991年より森のどんぐりから苗木を育て、山に植える活動を行っています。

⑥ 浅間山眺望ポイント

浅間山(標高2,568m)は、現在も活動している日本を代表する火山の一つです。2019年には小規模な噴火が確認されています。野鳥の森も浅間山の噴火の影響を大きく受けています。

⑦ ⑧ 炭焼き窯跡

炭はコナラなどの森の恵みから作られた燃料です。日本では、高度経済成長時代以前は家庭でもよく使われていました。樹木を倒して切り分け、石を積み重ねた窯の中で蒸し焼きにします。かつては、炭は貴重な収入源の一つで、野鳥の森には指定以前に作られた窯跡が2箇所あります。

⑨ ミソサザイ観察ポイント

ミソサザイは名前の由来が「溝のそばにいる些細な鳥」とも言われており、沢沿いでよく見られます。春には小さな体の割に大きな声で元気にさえずっています。

① ピッキオビジターセンター

民間団体(ピッキオ)により運営されています。野鳥をはじめとする自然の情報が得られます。

クマとのばったり遭遇に注意!

森はクマの生息地にもなっています。散策の際には、クマ鈴を携帯するなど注意してください(ビジターセンターでクマ鈴の無料貸出も行っています)。

軽井沢野鳥の森の楽しみ方

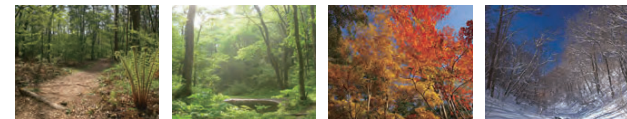
野鳥の森は国指定浅間鳥獣保護区内に位置しており、鳥類やほ乳類の生息地として保護されています。日本固有の鳥獣類だけでも24種類が生息しているだけでなく、季節の花々や人と自然との関わりを示す炭焼き窯跡なども見られます。

バードウォッチング

野鳥の森の入口付近は日当たりもよく小さな灌木類が生育しているため、カラ類などの小鳥類が観察できます。小さな沢沿いではミソサザイやキセキレイなどの水辺の鳥だけでなく、時には小鳥たちの水浴びも見られます。どんぐり池と呼ばれる人工の池の付近では時折ヤマドリも観察されます。開けた草地ではホオジロや冬にはベニマシコなどの草地性の鳥類が観察できます。

アニマルトラッキング

日本固有種であり世界最大級の「空飛ぶリス」であるムササビの他、イノシシやシカなど多くのほ乳類が生息しており、冬は雪上の足跡を探るアニマルトラッキングも楽しめます。ほ乳類の多くは夜になると行動が活発になりますが、早春から初冬はツキノワグマも活動しているため、夜間の観察は、専門のガイドツアーの利用が望ましいでしょう。



軽井沢町の野生動物の保護管理

軽井沢町は全面積の約4分の3が森林です。町内に16,000軒ある別荘の多くがその森林の中に建てられています。そのため軽井沢町では以前から人とツキノワグマやサルなどの野生動物との軋轢が問題になっていました。特にツキノワグマは草食性で臆病ではあるものの、食べ物の臭いにおびき寄せられ、ゴミ捨て場を荒らす被害がしばしば発生していました(1999年で年間約130件)。このようなクマは次第に人慣れしていくため最終的には駆除される運命にありました。

一方で、軽井沢町では人もクマなどの野生動物も安心して暮らせる街作りを進めてきました。クマに対しては、まず人の居住地域付近に生息

する個体を捕獲し、無線発信器を装着して森に放します。毎晩クマたちの位置を確認し、居住地域に入っていた場合には、アメリカで専門のトレーニングを受けたベアドッグとハンドラーなどがクマを森へと追い払うことで、クマも人も守ってきたのです。これらの取り組みによりゴミ箱が荒らされる被害はほとんどなくなり、クマの駆除数も減りました。これらをはじめとした各種の取り組みが評価され、軽井沢町は2011年に環境省から自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました。

